

第 8 回 〈令和7年12月16日開催〉

第 17 回議会活性化事業

コミュニティスクール議会広報

■発 行：占冠村議会

■責任者・編集：議会広報特別委員会

〒 079-2201 北海道勇払郡占冠村字中央 TEL 0167-56-2191 FAX 56-2184



参加状況

- 占冠中学校(生徒 6人) ●トナム学校(生徒 2人) ●占冠村議会議員 7人
- 傍聴者 21人

校長あいさつ

(占冠中学校 篠原純也校長)

占冠村教育大綱が今年改定され、その中で新しく加わったことが2点あります。1点目は、ふるさとへの愛着を持つこと、2点目は、平和で持続可能な郷土を創造する人を育成することです。トナム学校前期課程と中央小学校では、占冠村の魅力を学ぶために川の学校をはじめとした活動を、トナム学校後期課程と占冠中学校では、特に北海道大学と連携したふるさと教育事業に取り組んでいます。また、「SDGsの視点から見た占冠村」として、探究活動に取り組み、新しい占冠の魅力をたくさん知ることができました。それらを受けて議員の皆様、議会事務局の協力を頂き、本日のCS議会の質問づくりに一生懸命取り組んできました。生徒挨拶にありましたように、生徒達は未来をつくるために一生懸命質問を考えています。今の子供達は、こんなことを考えているんだなということを、ぜひ知っていただければ幸いです。

今日は議会のルールに基づいて、占冠村を少しでも良くできるように、正々堂々と論議してほしいと思います。

生徒あいさつ

(トナム学校 後期課程9年 関谷壮恭さん)

占冠村には自然の豊かさや地域ごとの魅力があり、暮らしている中で、その良さに気づくことが多くあります。

CS議会は、占冠村の未来と地域と学校が一緒に考える場であり、私たち生徒が社会に関わる第一歩として学べる貴重な機会だと感じております。

今回の活動では、占冠がこれからどのように発展しているのか、自分たちの世代が何を大切にしていけるのかを考える時間にしたいと思っています。

また、地域の現状を見つめながら、占冠の良さをどう生かしていけるか、自分の視点でしっかり向き合っていきたいです。

この経験を通して、地域の一員として成長し、占冠の未来に少しでも力になれるよう努めていきます。

人間として、社会へ参加するための基礎を育むことを目的に開催されました。
、生徒一人一人が議員に質問し、意見を述べていただきました。

浦田 香純CS議員

1 地域活性化について

問 他の町に出かけると、小中学生が作った物が商品化されたりしているのを見かけます。占冠でもジップタブの装飾を村の小中学生が行い、売上げの一部を占冠の自然を守るための活動に充てることで、学校の児童生徒にも村にもメリットはできると考えます。この案について、どのようにお考えでしょうか。

藤岡議員 アイデアとして非常にすばらしく、基本的には賛成です。

仲間を募って直接交渉してみる。大人の方々はアイデアを貸してくれたら体験する。売上げは考えず大人に任せる。一番大事なことは、仕組みを考え、実現してみたり、大人との交渉で知恵を貸してもらったり、その体験が最大のメリットだと思います。

村としても、占冠村の応援隊になっていただけることが最大の村のメリットです。

行政としては、やっておられる方を御紹介し、お繋ぎすることができるということです。

再問 大人の手を借りて、自分たちがやるという話が出ましたが、自分たちで考えるということは難しく、仲間と協力して何かを作り上げるということは、大人の方がサポートする必要があると考えます。今まで小中学生が作った物を商品化するとい

うことがあまり行われてこなかったと感じますが、その理由をお伺いしたいです。

藤岡議員 理由は正直分かりませんが、そこに至る知恵を出す人が今までいなかったのだらうと思います。そういうことの実現は非常にすばらしいことだと思うので応援したいと思います。

2 ヒグマ対応について

問 トマムでは熊スプレーや校庭に熊が出た時の訓練などをしてしていますが、占冠ではあまり訓練をしていないように感じます。ヒグマによる人身被害が増えている中、占冠も熊スプレーの購入や最低限の訓練など、対策を村で全面的に取り組む必要があると考えます。

これについてどのようにお考えでしょうか。

小尾議員 教育長にも確認させていただきましたが、御指摘のとおり地域での訓練に温度差が多少あるように思っておられました。

ヒグマ出沒による対処策は全村的に要望されており、学校間での連携業務としても急務の状況であります。

今年は、各学校に熊スプレーを2本ずつ配備されたということです。各学校と教育委員会とのヒグマの出沒対処の訓練を想定した取組を、来年行いたいとの意向でありました。

ラナ マユCS議員

1 アспен姉妹都市交流事業について

問 今年、アспен生の受入れを行いました。しかし、アспенに関する会議の日程や必要なものに関する連絡が遅く、不安に感じるがありました。そこで、現状の連絡体制はどのようになっているのか、また次年度以降の改善案があれば伺います。

下川議員 連絡体制としては、受入れ人数が決まった時点で、教育委員会から関係される方に連絡を入れるそうです。3月から4月ぐらいに派遣人数を決めて、4月の中旬に保護者説明会、5月頃に航空券の手配の検討がされ、9月頃にマッチングを確定し、日程が決定する流れで動いています。

来年度以降の改善策としては、受入れ、派遣該当のご家庭には飛行機が取れた時点でお伝えするという、皆さんの参加の意思が確認できた時点で、相手の情報等を確認して、スムーズなマッチングとなるよう取りまとめを行うこと、会議日程等もできるだけ早く周知するように努めると担当の方から伺っています。

再問 交流の流れをより良くするため、専門の部署を設けたり専属の担当の方を早めに決めておくことでよりスムーズに物事が進むのではないかと思います。どのようにお考えでしょうか。

下川議員 私個人としては同感ですが、人数など難しいと思うので、担当の方を早く決めていただけるように提案していきたいと思います。

占冠村の中学生が、議会の仕組みを理解することによって成人後に責任ある 今回は模擬議会として学校や地域の事柄等を議会の流れに沿って議事を進め

藤岡 拓雄CS議員

1 避難経路について

問 運動公園に繋がる避難路の階段には、ライトが2つしか設置されていませんが、実際に夜に災害が起きた時に避難する際の安全面についてどのようにお考えですか。

藤岡議員 この階段の使用目的は生活道路ではなく避難に特化したものです。いざ、避難をする時には、階段の上部、下部に灯りを準備し避難させると総務課から説明がありましたので安全を確保されていると思います。

再問 安全面が確保されているとおっしゃられていましたが、今後、避難階段に新たにライトを設置するという考えはありますか。

藤岡議員 今の状況では、行政としてはその必要性を感じていないということですが、今後、防災

訓練の結果をフィードバックし、そういったことに生かしていくというような説明がありました。

2 街路灯について

問 占冠診療所付近の村道に設置されている街路灯ですが、夕方に点灯し、夜になると消えるというような点灯の仕方になっています。それはなぜでしょうか。

そもそも、村の中での街路灯の数が足りず、灯りが無く、危険だと感じる道もありますが、街路灯の個数などは適切なのでしょうか。

藤岡議員 診療所付近の街路灯は村道のものではありませんが、すぐ改善できるのか確認したところ、既に手配していただいたようです。

街路灯の数については、私は妥当だと思いますが、適正配置が必要な箇所もあると感じています。

相馬 莉子CS議員

1 再生可能エネルギーについて

問 村はバイオマスエネルギーという再生可能エネルギーを利用されていますが、木質バイオマス生産組合で聞き取り調査をしたところ、植える、育てる、伐採するという循環ができていないと分かりました。これについてどうお考えでしょうか。

大谷議員 毎年、植える、育てる、伐採する循環をしており、東京ドーム3.2倍の土地に植えているそうですが、植えるところを見る機会が少ないのでそう感じるかもしれません。ただ、木が大きくなるまで35年ぐらいかかって切れる状態になるので、循環ができていないということではなく、再エネの循環はされているということでお答えします。

再問 このような問題を解決するために、再エネに木質バイオマスエネルギー以外を利用したらよいと考えているのですがどうお考えでしょうか。

問(大谷議員) 他に何をお考えかを聞いてもよろしいですか。

相馬CS議員 雪氷熱エネルギーという再エネを利用したらよいと考えています。

大谷議員 村に雪が降っていますので良いアイデ

アだと思います。ただ、予算が必要で財政面が難しいと思いますけども、将来に向けてそういうアイデアを村の政策に提言していければと思います。

2 学校設備について

問 学校の暖房は各教室で調節、設定できない仕組みとなっています。各教室に温度調節ができる暖房を設置してほしいと思いますが、どうお考えでしょうか。

小尾議員 今、各教室までの温度調節はできません。多額の経費が要されますので、現実的には難しいことを御理解頂きたいと思います。

そこで提案ですが、先生や生徒さんで最適な室温管理を共有していただいて、教室の扉、窓の開閉も上手に利用して、環境を良くしていただければと思います。

再問 窓を開けてしまうと寒くなり、上手に温度を調節するため温度調節ができる暖房を設置したほうが良いと思うのですが、これは中学校から改修要望を出したら改修してもらえるのでしょうか。

小尾議員 改修は難しいということを教育委員会でもお聞きしております。教室の扉での管理も必要ではないかと思っています。

1 環境保全について

問 占冠村で1か月に1回2回は村のごみ拾いをしたら良いと思うのですが、どのように考えていますか。

大谷議員 すてきなアイデア、ありがとうございます

ます。月1回はなかなか難しいと思いますので春と秋、雪解けのごみ拾いというような感じで行われたいと思います。村全体では難しいと感じ議員間で協議した結果、行政区単位でやれたいいなという話が持ち上がりましたので、各行政区に連絡して進められたいいなと思っています。

関谷 壮恭CS議員

1 トمامリゾート依存の現状と村独自の観光戦略について

問 占冠村全体では年間約146万人が訪れている一方、その内約107万人がトمامリゾート関連の来訪であり、観光面でトمامリゾートへの依存が非常に大きい状況だと認識しています。こうした状況を踏まえ、村として現在のトمامリゾート依存をどのように捉え、今後どのような観光戦略を持って観光の多角化を図っていくお考えでしょうか。

木村議員 依存していると言われても仕方ないところもありますが、見方を変えてみれば違う面が見えてきます。リゾートから行政に協力を求めることもありますし、リゾート側も租税回避という実態がありますので、トمامリゾートに依存しているという評価は私は当たらないと考えています。

戦略についてですが、私見として、自治体と地元の企業、観光協会などの官民連携を進めることで、多様化する観光ニーズに柔軟に対応できる地域づくりも求められるようになり、観光における政策を戦略、戦術を持って立案し、総力戦で事に当たるといった状況になっていると考えています。

再問 御指摘のとおり、依存していないかもしれませんが、現状としてトمامリゾートが安定していて、地域住民も安心して暮らしていけるとしています。

依存という言葉の問題ではなくて、146万人のうち約107万人がリゾート関連で来ているという現状をどのように捉えていて、それをどのように

克服していくか。今、トمامリゾートが安定しているからこそ変えていくタイミングと僕は考えますがそれをどのようにお考えですか。

木村議員 トمامの農業者も生産が大変で、リゾートを誘致するしかなかった。占冠自体の産業が弱いので、観光に頼らざるを得ない状況です。今は順調で各国からも来ていますけども、観光は博打みたいなもので、将来的には分からないと思います。観光が流行っているうちに産業を強化して、いろんな面で高付加価値を付けた農産物を作るとか、農地も小さく他に太刀打ちできないので、その辺は行政が頑張ってくれと思います。

再問 確かに農地も小さいですし、占冠自体の産業は確かに少し弱いと感じる部分もありますが、トمامリゾート一つに頼るのではなくて、道の駅など他のところに来てお金を落としてもらうみたいな形にしたいと思っています。他町の道の駅はただ立ち寄り場所ではなく、目的として来てくれている人がたくさんいるという現状になっています。道の駅で占冠自体の魅力を発信するなど、道の駅を目的に占冠に来てもらえるような改革はどのようにお考えでしょうか。

木村議員 昔から見ると2、3万人しか来てくれなかったのが、約50万人がトمام以外で来てくれています。これはすごい資源だと思います。村の道の駅もそれぞれ事情はあるのですが、その体制でも約50万来ているのはすごいことと思っています。道の駅の充実は大事なことです、現実を見ると難しいところがあります。



1 観光客誘致について

問 占冠村中央では観光客を集めるための取組を何か行っていますか。

細谷議員 主に観光協会と連携し、ホームページの作成、パンフレット、しむかっぴーによる魅力発信をSNSなどで行っております。

また、各種イベントなどによる集客とPRを行っています。

再問 占冠村はやっぱりトママリゾートが有名なので、そのトママリゾートを宣伝するような取組はされていますか。

細谷議員 村のホームページ等に各観光名所の紹介等、それからトママリゾートの紹介も載っております。また、リゾート独自でCM放送もされております。

2 土地問題について

問 村で使用用途を決めることができる土地は現在ありますか。

細谷議員 本村における空き地はほとんどが私有地です。村有地の活用は用途を決めることができますが、狭い土地が点在している状況です。

再問 コミプラの裏の土地を使うということとはできないのでしょうか。

細谷議員 所有者がおり、使用用途の協議が必要で、何かに使おうとするときは使用変更のための手続きが必要となってきます。

再問 土地が少なくて観光に使うことができない、難しいということですが、運動公園の土地を変えることはできないのでしょうか。

細谷議員 不可能ではないと思います。

再問 その土地を使って花畑を造ることは可能ですか。

細谷議員 すばらしい提案と思います。道の駅は、令和6年度より周辺の安全性確保と利便性の良さを改善すべくリニューアル計画を検討することになるかと思います。ニーズを把握し特徴のある道の駅の検討をする段階にもあると思います。

再問 第5次占冠村総合計画の「観光」において、「メープルシロップや鹿肉のような地域資源を発掘し、魅力あるものに磨き上げる」とありますが、そこに花畑を加えることは可能ですか。

細谷議員 すばらしいアイデアだと思います。道の駅も含めて検討し計画をする段階であるところからです。

1 ごみ問題について

問 外国籍の方で、ごみ分別に関わる資料を渡されていたのですが、分別ルールが理解できていませんでした。外国人以外の方も分別ルールが理解できなかったという話も聞きました。そこで村のごみ分別の周知は十分だとお考えですか。

下川議員 十分ではなく改善が必要だと思います。村では今年度中にごみ分別アプリとごみ分別辞典の改訂版を配布するとのこと。また、新年度にごみ分別説明会を4か所で開催する予定と伺っており、知識を深められたらと思っています。

再問 アプリの作成、学習会の周知方法はどのようなものですか。

下川議員 回覧版やホームページでの周知になると思います。

再問 ごみ分別を理解できていない理由の一つに、ごみ分別のホームページ自体の理解もされていないという問題もあると思います。どのようにお

考えですか。

下川議員 確かに分かりにくい状況だと思います。アプリの内容は分かりませんが、翻訳機能がついていると伺っています。ホームページにも言語変更する機能があるので外国籍の方でも御覧頂けると思いますが、周知も必要だと思うので、村に提案できたらと思います。

問 ごみ回収業者にインタビューしたところ、分別ができていないごみがあるがプライバシー侵害の可能性があったり、時間がなかったりして回収ができないため、村で対応をとって欲しいと言っていました。この点についてどのようにお考えですか。

下川議員 回収できないごみ袋は回収不可の張り紙が張られます。捨てた方が分別し直すのが本来とは思いますが、ある程度の段階で村が分別し、捨てていると聞いています。ごみの分別は出す方の責任なので、今後分かりやすい説明が必要になると思います。説明会もするという事なので、各個人が意識を高めるため参加していただく、疑問は担当課に問合せすることが重要だと思います。

CS 議会までの議員の動向

- 10月31日 担当議員・事務局事前打合せ（担当議員・事務局）
- 11月11日 占冠中学校事前打合せ（学校・担当議員・事務局）
トママ学校事前打合せ（学校・担当議員・事務局）
- 12月 2日 トママ学校一般質問まとめ、通告書作成（学校・担当議員・事務局）
3日 占冠中学校一般質問まとめ、通告書作成（学校・担当議員・事務局）
5日 一般質問通告期限
9日 一般質問打合せ（全議員・事務局）
12日 一般質問打合せ（全議員・事務局）
16日 令和7年第8回占冠村コミュニティ・スクール議会

議長の講評（抜粋）

一昨年、こども基本法が施行され、地方公共団体に対し子どもの意見を反映させることを義務化しましたが、第8回目を迎えたこのCS議会もその一環と言えます。中学生の皆さんには、1日議員として議会での議事運営を体験いただき、中学生らしい感性で、学校のことや村づくりに参加することから、今年も一般質問という形とし、各議員が質問に答弁をする形での開催としました。

議会における一般質問にはルールが存在します。自分が考えた質問の内容を要旨として、定められた期限までに議長宛てに提出する義務があり、その内容については、質問の主旨や意図が明確に答弁者に伝わるようにする必要がありますが、今回、一部不明瞭な通告があったことは少々残念に思います。

9分間以内で簡潔明瞭に発言するのは大変難しいことですが、学校生活においても、いかに簡明に自分の意を伝えることができるか、CS議員の皆さんにはこれからも勉強していただきたいと思います。

本日の質問内容については、学校、地域、あるいは村全体におけることなど幅広い項目でしたが、中学生の視点から様々な課題を率直にとらえられ、発言態度も含めて大変素晴らしいものでありました。

また、再質問あるいは再々質問に積極的に取り組まれたことも高く評価します。

今年はCS議員からの質問通告に対し、個々の議員の意見を尊重しながら議会全体で意見を出し合い、答弁内容を共有しました。

よって、今日は皆さんの質問に対して単に議員が答弁をしたということではなく、議員との意見交換の場として捉えていただきたいと思います。

以上で、私からの感想及び講評といたします。

（占冠村議会議長 児玉 眞澄）

村長の講評（抜粋）

CS議員の皆さん、貴重な御意見、御提言を頂き誠にありがとうございました。今年で8回目のCS議会ですが1回目から拝見させていただいております。村づくりを運営する者として効果的な課題解決に取り組むきっかけにもなっており、実際に実行された事案もあり、村づくりにおいて大いに役立っていると思っています。

本日は8名から12件の提言がありましたが、真摯に受け止め、今後の行政運営に活かしたいと考えています。議会と執行側は車の両輪として、両者が協議する中から進むべき道を決定し、議会制民主主義の基本となっています。CS議員の皆さんは、本日その仕組みの一部を体験されましたので、今後の学生生活に活かしていただければと思います。

本日は貴重な時間を頂きありがとうございました。

（占冠村長 田中 正治）